
「新約のきよめ」

第21章 きよめる信仰

全き聖化を受ける条件は信仰

献身と全き聖化の間には違いがある。

献身は、私たちの側の意志的な行為。

全き聖化は、聖霊によって私たちのうちにもたらされるみわざ。

献身があっても全き聖化がないということはある。

しかし、献身のないところに全き聖化はない。

献身の後、聖化を受けるのに必要なのは信仰。

義認の条件が信仰であるのと同じように、聖化の条件も信仰。

義認を恵みによって受けたのと同じように、聖化も私たちが自分の努力をやめてキリストだけに信頼するときに、与えられるもの。

信仰は“今”働かせるべきもの

聖化のための備えは、すでに完全になされている。

だから必要なのは「神は今それをしてくださる」という信仰を働かせること。

それは私たちが求めるものを受けると信じる信仰。

持っていないものを持っていると信じることではない。

いつか将来に受けるだろうと信じることでもない。

今それを受けると信じること。

信じるために、まず神さまというお方を知り、

何を備えてくださっているかを知ることが大切。

しかしそれだけでなく、それを今与えてくださることを信じる必要がある。

信仰は神さまが提供して下さっているものを受け取る手。

信仰の根拠は感情であってはならない

信仰の根拠は神のことば。

私たちが確かめなければならないことは、自分が条件を果たしたかどうか。もし果たしているなら、神はその約束通りになさることを信じるのが私たちの義務。そのときにみわざがなされた確信が与えられる。

神さまの順序は、初めに信じ、次に受け、そして知る。

待ち望むことではなく、自分のものとして充当する信仰。

感情と無関係に、明確に受けること。

自分がどう感じるかにかかわらず、神さまは条件を果たすなら約束を果たしてくださいと信じる。

今受けると信じたその瞬間に受けることができる。